

GCOE Discussion Paper Series

Global COE Program

Human Behavior and Socioeconomic Dynamics

Discussion Paper No.210

遺産動機の国際比較

チャールズ・ユウジ・ホリオカ

August 2011

GCOE Secretariat
Graduate School of Economics
OSAKA UNIVERSITY

1-7 Machikaneyama, Toyonaka, Osaka, 560-0043, Japan

遺産動機の国際比較
(An International Comparison of Bequest Motives)

大阪大学社会経済研究所教授
チャールズ・ユウジ・ホリオカ
(Charles Yuji Horioka)

2011年8月

要旨

本稿では、3つの家計行動に関する理論モデルを紹介し、中国、インド、日本、アメリカで大阪大学が実施しているアンケート調査からのデータを用いてこれらの国における遺産動機・遺産の分配方法の実態を明らかにし、これらの国においてどの家計行動の理論モデルが成り立っているかを明らかにする。本稿では、アメリカ人とインド人のほうが日本人と中国人よりもはるかに利他的であり、逆に日本人と中国人のほうがアメリカ人とインド人よりもはるかに利己的であるという結果が得られ、利他主義の度合の違いは宗教心の違いに起因している可能性が高いということが示唆される。

キーワード：遺産動機、遺産の分配方法、世代間移転、親子関係、家計行動、利他主義、利己主義、王朝主義、ライフ・サイクル・モデル、利他主義モデル、王朝モデル、宗教心

連絡先：

チャールズ・ユウジ・ホリオカ

Charles Yuji Horioka

〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘6-1

大阪大学社会経済研究所

電話番号：06-6879-8586, 8574

ファックス番号：06-6879-8575

メールアドレス：horioka@iser.osaka-u.ac.jp

『季刊個人金融』(*Quarterly of Personal Finance*), vol. 6, no. 2 (July 2011), pp. 2-7 に掲載予定である。

1 はじめに

経済学者は通常、人間は利己的であり、自分のことしか考えないと仮定するが、被災者に寄付をしたり、ボランティア活動をしたり、子に遺産を残したりする人は少なくはなく、このような人々の行動は利他的であるかのように見える。人間は利己的なのだろうか、それとも利他的なのだろうか。また、利他的な人の割合は国によって異なるのだろうか。本稿の目的は中国、インド、日本、アメリカで実施されたアンケート調査からのデータを用いてこれらの問いに対する回答を示すことである(他のデータを用いて類似した分析を行った例として Horioka (2002)、ホリオカ(2002, 2008)をご参照されたい)。

本稿の構成は以下の通りである。第2節では、3つの家計行動の理論モデルについて解説し、第3節では、用いたデータの出所について述べ、第4節では、中国、インド、日本、アメリカで実施されたアンケート調査からのデータを用いてこれらの国における遺産動機・遺産の分配方法の実態を明らかにし、これらの国においてどの家計行動の理論モデルが成り立っているかを明らかにし、第5節では結論を述べる。

2 家計行動に関する理論モデル

本節では、家計行動に関する理論モデルを3つ紹介し、それらのモデルの遺産動機・遺産の分配方法に対する含蓄について述べる。

経済学者は家計行動に関する理論モデルとしてしばしば以下の3つのモデルを用いる。

(1) 利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデル

このモデルは人々が利己的であると仮定する。

(2) 利他主義モデル

このモデルは人々が子に対して世代間の利他主義(愛情)を抱いていると仮定する。

(3) 王朝モデル

このモデルは人々が家または家業の存続を望んでいると仮定する。

これらのモデルは遺産動機および遺産の分配方法に対して異なった含蓄を持っており、次にこれらのモデルの遺産動機、遺産の分配方法および親子関係に対する含蓄について説明する。

(1) 利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデル

遺産動機：遺産を全く残さないか、死期の不確実性からくる意図せざる遺産のみを残すか、子が老後において世話または経済的援助をしてくれた場合にのみ遺産を残す。

遺産の分配方法：老後において世話または経済的援助をより熱心にしてくれた子に遺産をより多く、または全部残す。

(2) 利他主義モデル

遺産動機：子が老後において世話も経済的援助もしてくれず、家も家業も引き継いでくれなかったとしても、子に遺産を残す。

遺産の分配方法：遺産を均等に配分するか、ニーズのより多い子または所得獲得能力のより少ない子に遺産をより多く、または全部残す。

(3) 王朝モデル

遺産動機：子が家または家業を引き継いでくれた場合にのみ遺産を残す。

遺産の分配方法：家または家業を引き継いだ子に遺産をより多く、または全部残す。

つまり、どの家計行動の理論モデルも、遺産動機および遺産の分配方法に対して異なった含蓄を持っており、人々の遺産動機、遺産の分配方法について見ることによって、どの家計行動の理論モデルが実際に成り立っているかがわかる。

3 データの出所

本節では、本稿で用いるデータの出所について紹介する。

本稿で用いるデータは、大阪大学の21世紀COEプログラム「アンケート調査と実験による行動マクロ動学」およびグローバルCOEプログラム「人間行動と社会経済のダイナミクス」の一環として実施されている「くらしの好みと満足度」に関するアンケート調査からのデータである。本調査は日本とアメリカでは毎年実施されており、中国とインドでは断続的に実施されている。

日本とアメリカの調査は全国調査であり、中国では都市調査と農村調査が別々に実施されており、インドでは都市調査のみが実施されている。本稿では、2009年1月～2月に実施された中国の都市調査、2010年1月に実施された中国の農村調査、2009年1～2月に実施されたインド調査、2009年2月～3月に実施された日本調査および2009年1月～3月に実施されたアメリカ調査からのデータを紹介することにする。

この調査は、対象4ヶ国においてほぼ同じ調査票を用いており、2009年度以降、以下の遺産動機に関する設問が含まれている。

問34【お子さんがいらっしゃる方におたずねします】 あなたはお子さんに残す遺産についてどのようにお考えですか。当てはまるものを1つ選び、○をつけてください。

- 1 いかなる場合でも遺産を残すつもりである (2)
- 2 子供が老後の世話・介護をしてくれた場合にのみ遺産を残すつもりである (1)
- 3 子供が老後において経済的援助をしてくれた場合にのみ遺産を残すつもりである (1)
- 4 子供が家業を継いでくれた場合にのみ遺産を残すつもりである (3)
- 5 遺産を積極的に残したいとは思わないが、余ったら残す (1)
- 6 遺産を残したら、子供の働く意欲を弱めるから、いかなる場合でも遺産を残すつもりはない (2)
- 7 自分の財産は自分で使いたいから、いかなる場合でも遺産を残すつもりはない (1)
- 8 遺産を残したいが、余裕がないから残せない (1, 2, 3)

【上の問で「1」～「5」を選択した方は、次の付問34-1にお進みください。それ以外の方は問35にお進みください】

付問34-1 あなたはお子さんに遺産をどのように配分するおつもりですか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 均等に配分するつもりである (2) → 問35へ
- 2 均等には配分しないつもりである (1, 2, 3) → 付問34-2へ
- 3 子供は一人しかいないので配分の問題は生じない → 問35へ

【付問34-1で「2」を選択した方は、付問34-2にお進みください。それ以外の方は問35にお進みください】

付問34-2 それでは、あなたはお子さんに遺産をどのように配分するおつもりですか。当てはまるものすべての番号に○をつけてください。

- 1 同居してくれた子に多く配分するつもりである (1)
- 2 近くに住んでくれた子に多く配分するつもりである (1)
- 3 家事の手伝いをしてくれた子に多く配分するつもりである (1)
- 4 介護をしてくれた子に多く配分するつもりである (1)
- 5 経済的援助をしてくれた子に多く配分するつもりである (1)
- 6 家業を継いでくれた子に多く配分するつもりである (3)
- 7 長男・長女が同居したり、近くに住んだり、家事の手伝いをしたり、介護をしたり、経済的援助をしたり、家業を継いだり、とくに尽くしてくれなかったとしても、長男・長女に多く、または全部配分するつもりである (3)

- 8 所得を稼ぐ能力が小さい子に多く配分するつもりである (2)
- 9 遺産をより多く必要としている子に多く配分するつもりである (2)
- 10 より好きな子に多く配分するつもりである (2)

各選択肢の後の括弧内の数字はその選択肢がどの家計行動の理論モデルと整合的であるかを示すものである (1 = 利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデル、2 = 利他主義モデル、3 = 王朝モデル)。

したがって、この調査は遺産動機分析 (特に3つの家計行動の理論モデルの妥当性に関する分析) に最適である。

4 遺産動機に関する調査結果

本節では、対象4ヶ国 (中国(都市部、農村部)、インド、日本、アメリカ) の遺産動機および遺産の分配方法に関する調査結果を紹介し、そうすることによって、これらの国において、どの家計行動の理論モデルが成り立っているかを明らかにする。

表1には、遺産動機に関する結果が示されているが、この表から分かるように、遺産動機が利他主義モデルと整合的な遺産動機を持っている回答者の割合はアメリカで最も高く (68.04%)、インドで2番目に高く (64.29%)、中国の都市部で3番目に高く (41.24%)、中国の農村部で4番目に高く (34.47%)、日本で最も低く (33.45%)、どの国においても「いかなる場合でも遺産を残すつもりである」という選択肢が利他主義モデルと整合的な遺産動機の中で圧倒的に重要である。

逆に、利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデルと整合的な遺産動機を持っている回答者の割合は日本で最も高く (64.47%)、中国の農村部で2番目に高く (56.94%)、中国の都市部で3番目に高く (53.20%)、インドで4番目に低く (32.01%)、アメリカで最も低く (31.74%)、どの国においても「遺産を積極的に残したいとは思わないが、余ったら残す」という選択肢が利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデルと整合的な遺産動機の中で圧倒的に重要である。

また、王朝モデルと整合的な遺産動機 (「子供が家業を継いでくれた場合にのみ遺産を残すつもりである」) を持っている回答者の割合はどの国においても低いが、中国の農村部で最も高く (8.59%)、中国の都市部で2番目に高く (5.57%)、インドで3番目に高く (3.70%)、日本で4番目に高く (2.09%)、アメリカで最も低い (0.23%)。

つまり、国によって利他的な人、利己的な人、王朝的な人の割合が大きく異なり、日本と中国（都市部、農村部）では利己的な人が最も多く、アメリカとインドでは利他的な人が最も多く、王朝的な人はどの国においても最も多くないが、中国（特に農村部）で王朝的な人の割合が最も高い。

遺産の分配方法に関する詳しい調査結果は紹介しないが、どの国においても利他主義モデルと整合的な分配方法を予定している回答者が圧倒的に多いが、その中でも圧倒的に重要である選択肢（「均等に配分するつもりである」）を持っている回答者の割合はアメリカで最も高く（93.44%）、インドで2番目に高く（86.27%）、中国の都市部で3番目に高く（85.88%）、日本で4番目に高く（74.57%）、中国の農村部で最も低い（65.17%）。つまり、遺産の分配方法に関する調査結果は遺産動機に関する調査結果とほぼ整合的であり、アメリカ人とインド人が日本人と中国人よりもはるかに利他的であるという結果となっている。

要約すると、人々の遺産動機、遺産分配から判断する限り、国によって成り立っている家計行動の理論モデルが大きく異なり、アメリカ人とインド人は日本人と中国人よりもはるかに利他的であるようである。

この国同士の違いの原因を解明するのは今後の課題として残るが、最後にこの点について暫定的な結論を出したい。第1に、日本と中国は利他主義の度合も文化も共通しているが、アメリカとインドは文化が共通していないのにもかかわらず、利他主義の度合はほぼ同じである。したがって、利他主義の度合の違いは文化の違いによるものであるとは考えにくい。第2に、アメリカとインドの経済の発展度合が大きく異なるのにもかかわらず、利他主義の度合はほぼ同じである。同様に、中国と日本の経済の発展度合も大きく異なるのにもかかわらず、利他主義の度合はほぼ同じである。したがって、利他主義の度合の違いは経済の発展度合の違いによるものであるとは考えにくい。第3に、アメリカと日本では社会保障制度が共に充実しているのにもかかわらず、利他主義の度合が大きく異なる。同様に、インドと中国では社会保障制度が共に遅れているのにもかかわらず、利他主義の度合いは大きく異なる。したがって、利他主義の度合の違いは社会保障制度の充実度の違いによるものであるとは考えにくい。

利他主義の度合の決定要因として、これらの要因よりも宗教心のほうがはるかに重要であると考えられる。なぜならば、アメリカとインドでは宗教心が共に強く、利他主義の度合も共に高い。同様に、日本と中国では宗教心は共にそれほど強くなく、利他主義の度合も共に低い。したがって、宗教心の違いによって利他主義の度合の違いをほぼ説明できるようである。

5 おわりに

本稿では、3つの家計行動に関する理論モデルを紹介し、中国、インド、日本、アメリカで大阪大学が実施しているアンケート調査からのデータを用いてこれらの国における遺産動機・遺産の分配方法の実態を明らかにし、これらの国においてどの家計行動の理論モデルが成り立っているかを明らかにした。本稿では、アメリカ人とインド人のほうが日本人と中国人よりもはるかに利他的であり、逆に日本人と中国人のほうがアメリカ人とインド人よりもはるかに利己的であるという結果が得られ、利他主義の度合の違いは宗教心の違いに起因している可能性が高いということが示唆される。

参考文献

Horioka, Charles Yuji (2002), "Are the Japanese Selfish, Altruistic, or Dynastic?" *Japanese Economic Review*, vol. 53, no. 1 (March), pp. 26-54 (the 2001 JEA-Nakahara Prize Lecture).

ホリオカ、チャールズ・ユウジ (2002)、「日本人は利己的か、利他的か、王朝的か」(日本経済学会・中原賞講演)、大塚啓二郎、中山幹夫、福田慎一、本多佑三編、『現代経済学の潮流 2002』(東洋経済新報社)、pp. 23-45。

ホリオカ、チャールズ・ユウジ (2008)、「日本における遺産動機と親子関係：日本人は利己的か、利他的か、王朝的か?」、チャールズ・ユウジ・ホリオカ、財団法人家計経済研究所編、『世帯内分配・世代間移転の経済分析』(ミネルヴァ書房、8月)、pp. 118-135。

略歴

ちやーるず ゆうじ ほりおか

1956年生まれ。1977年ハーバード大学経済学部卒。経営経済学博士(ハーバード大学)。京都大学、スタンフォード大学、コロンビア大学を経て現在、大阪大学社会経済研究所教授。

【著書】

『高齢化社会の貯蓄と遺産・相続』日本評論社(1996)(高山憲之、太田清と共編著)。

『日米家計の貯蓄行動』日本評論社(1998)(浜田浩児と共編著)。

『世帯内分配・世代間移転の経済分析』ミネルヴァ書房(2008)(財団法人家計経済研究所と共編)。

表1: 遺産動機の国際比較					
各々の考え方を持っている回答者の割合	中国(都市部)	中国(農村部)	インド	日本	アメリカ
利他主義モデル					
いかなる場合でも遺産を残すつもりである	39.28	33.21	62.23	32.27	67.42
遺産を残したら、子供の働く意欲を弱めるから、いかなる場合でも遺産を残すつもりはない	1.96	1.26	2.06	1.18	0.62
小計	41.24	34.47	64.29	33.45	68.04
利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデル					
子供が老後の世話・介護をしてくれた場合にのみ遺産を残すつもりである	9.38	6.31	14.94	3.80	1.76
子供が老後において経済的援助をしてくれた場合にのみ遺産を残すつもりである	4.33	4.67	4.73	0.78	0.54
遺産を積極的に残したいとは思わないが、余ったら残す	37.53	43.69	11.65	58.40	28.21
自分の財産は自分で使いたいから、いかなる場合でも遺産を残すつもりはない	1.96	2.27	0.69	1.50	1.22
小計	53.20	56.94	32.01	64.47	31.74
王朝モデル					
子供が家業を継いでくれた場合にのみ遺産を残すつもりである	5.57	8.59	3.70	2.09	0.23
小計	5.57	8.59	3.70	2.09	0.23
総計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
標本数	970	792	1,459	3,740	6,633
備考: この質問に回答しなかった回答者、健在な子供のいない回答者、「遺産を残したいが、余裕がないから残せない」と回答した回答者は含まれていない。					
データの出所: 本文参照。					